

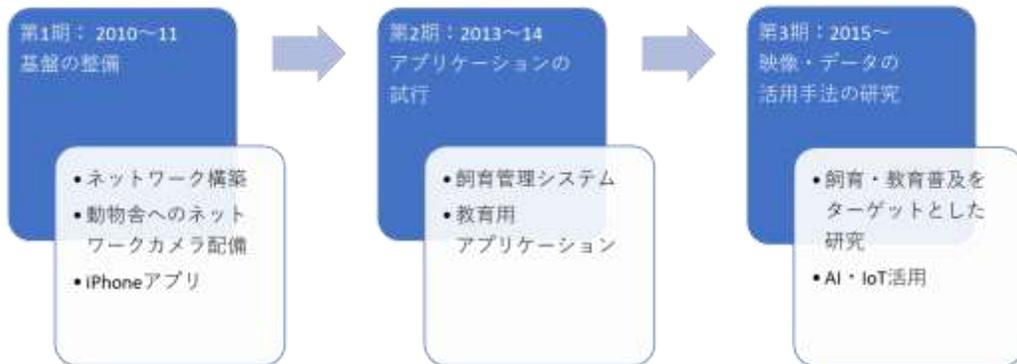
京都市動物園におけるICT利活用の取り組み

公益財団法人京都高度技術研究所

生きた動物を展示する自然科学系博物館として、動物園は、種の保存や動物研究、教育普及など幅広い役割を担っています。このような役割において、ICTの重要性は増えています。京都高度技術研究所と京都市動物園では、2010年以降、園内への無線ネットワークの配備を端緒として、近年ではAIやIoTの活用など、動物園におけるICT利活用に関する幅広い取り組みを進めています。

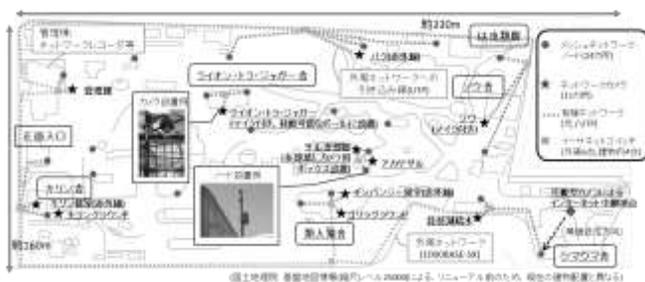
① 経緯

2010～11のネットワークやカメラの配備に始まり、10年以上にわたって動物園におけるICT利活用の取り組みを進めてきました。



① 基盤の構築(2010～2011)

2010年、京都市動物園ではメッシュネットワークにより園内全域をカバーした無線ネットワーク環境を整備しました。リニューアル(2015年完成)に合わせてネットワーク構成を順次変更しながら、以降のICT利活用の取り組みの基盤として継続して活用しています。



当初のネットワーク構成



アクセスポイント(2010年)

飼育動物のようすを継続的に記録するために、動物舎内にはネットワークカメラが設置されています。これらの映像は、日常の飼育における動物の状態把握に利用されるとともに、動物園における研究活動にも活用されています。園内ネットワークは、これらの映像を集約して蓄積できるように設計されました。

